

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900352		
法人名	社会福祉法人長生会		
事業所名	グループホームまつぎきの宿		
所在地	福岡県小郡市松崎字福泉塚476-1		
自己評価作成日	平成23年6月10日	ユニット名	筑前

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年6月28日	評価結果確定日	平成23年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族を通じ地域の方が気軽に遊びに来たり、相談しやすい様に地域に開かれた施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、地域と母体法人との共催により、松崎地区に伝わる「峯元天神祭り」が復活する事となり、地域の一人として、必要とされる役割を積極的に担い、また牽引役としても存在を示しながら、地域拠点としての活動を行っている。室内空間作りにも地域性が表現されており、旅籠の屋号が掛けられた各居室には軒が設けられ、それが連なる様子は、宿場町としての歴史を持つ地域の景観が再現されている。所長、管理者、職員は、入居者一人ひとりに応じた関わりを持ちながら、意向や状況を受け止め、その人らしさへの支援につなげている。詳細に記された個人記録や、センター方式を活用しながら個々人の把握に努め、趣味活動や力を発揮する場面を介護計画の中に示しながら、日常の暮らしを重視した支援が行われている。入居者の方々の豊かな表情や、凛然たる姿からも、日々の暮らし振りを窺い知ることができ、経験豊かな職員により、理念の柱である「人格の尊重」や、「健康で明るく楽しい生活」の具現化に取り組んでいる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”地域の中でその人らしく健康で明るく楽しい生活が出来るように”との理念を掲げ、実現に向け日々努力している。毎朝業務前に理念を唱和し共有している。	開設時に職員間で作成された独自の理念は、入居者により毛筆書きされ掲示されている。日常の支援の過程において、確認、共有を図りながら、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の文化祭や放生会、盆踊り、桜祭りに参加したり、ホームにも地域の方が童謡の集い、セラピー、天神祭りなどに参加して頂いている。	自治会に加入し、運営推進会議や広報活動を通じて情報の共有を図っている。法人代表者の地元でもあり、根付いた地域との関係性の中にある。今年度は、地域と母体法人との共催により、松崎地区の伝統行事であった「峯元天神祭り」が復活する事となった。婦人会や他のホームの参加も得て「童謡の集い」が開かれたり、地域の困難事例にも柔軟な対応が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議やホームの宿祭りに参加して頂き、利用者の日々の様子を理解して頂いている。又、毎月、日常生活の様子を地域や家族に配布している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告をした後に今後の支援について話し合っている。アドバイスを頂き、より良い支援につなげる様努力している。	家族代表、区長、老人会代表、民生委員、法人代表者、行政担当者等の参加により、定期開催されている。ホームからは報告や情報発信が行われ、委員との意見交換や、地域、行政からの情報提供を、運営や地域づくりに活かしていくよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支援の中でホームでの対応が難しい問題が生じた時は、市へ相談し解決に向けて一緒に検討している。	認知症サポーター養成講座の開催や、市の虐待防止研究会での取り組み、また、ホーム行事への招待や地域の困難事例への対応を通じて、市町村担当者や包括支援センター職員との連携を図り、協力関係を築いている。事業所便りを、市、警察、消防に配布している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行き、学んだ事を元に月例ミーティング時に勉強会を行い、身体拘束をしない支援を行なっている。	外部研修参加や、内部での勉強会実施を通して、身体拘束に関する共有認識を図っている。言葉や薬による抑制、車椅子の利用法等にも意識を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠されておらず、個別の意向や状況に応じた距離感を保ちながら、さりげない見守りが行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小郡市の虐待防止研究会に所属しており、月例ミーティング時に勉強会を行い虐待を見逃さない意識付けを行なっている。特に言葉の虐待に気を付けている。		

福岡県 グループホーム まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで勉強会を重ねている。実際に市と共に、日常生活自立支援についての検討をした事がある。	制度の活用に向けて、また、活用の必要性について検討を行う等の支援が行われている。関係機関の主催する外部研修への参加やホームでの勉強会の実施、また、成年後見人である弁護士との連携を通じて、権利擁護に関する制度の理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。改定等がある時は、文章を作成し、説明を行い納得して頂いている。(例～定期受診、小口に関する事)		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者間の会話や家族からの聞き取りにも関心を持ち、情報として取り入れている。又、苦情、相談窓口の情報を玄関入り口に掲示し御意見箱も設置している。	行事(運動会・宿祭り等)の際に家族が集まる機会を持っており、多くの家族が一堂に会する場面がある。入居者の発言を記録、共有しながら、実現に向けた検討を行っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや月例ミーティングで意見を出してもらったり、匿名で意見を言って貰える様に職員用の意見箱を設置している。	職員用の意見箱を設置しており、無記名で意見や要望を収集し、月例ミーティングにて検討を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長と管理者が職員の勤務状況を把握し、代表者へ職員昇給の働きかけを行なっている。又、代表者と全職員との意見交換の場を設けている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、年齢、性別の制限や排除は行わない。パート職員も有休が取れる体制である。	外部研修に参加する際は出勤扱いとなり、参加費用をサポートしている。また、産休や育児の取得、職場復帰に向けた配慮を行う等、権利の保障及び働きやすい職場環境づくりを行っている。これまでの職歴や取得免許、特技を活かして、日々の業務の中で力を発揮してもらっている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	保険者主催の人権学習に定期的に参加し、ホームの理念を元に安心した生活が出来るように努力している。	行政や社会福祉協議会の主催による、人権尊重や権利擁護に関する外部研修に参加し、継続して人権教育、啓発を行っている。	

福岡県 グループホーム まつざきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修には積極的に参加している。まとめた研修内容をミーティングの勉強会で報告し意識付けを行なっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや小規模多機能との交流を行い、質の向上を図っている。又、勉強会等の情報交換を行いネットワーク作りをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報として大体の事は把握する様にしている。本人との面談を通して少しずつ本人の思いや不安、希望を知る努力をしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受けとめ、十分に話を聴くようにしている。面会に来られた時、利用者の方の行なわれた良い事を報告し、面会に来る楽しみ作りをしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、必要としている事を見極めこちらで対応できない時は他のサービスを紹介している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の発語や表情の中の思いを見逃す事なく、スタッフ一同共有し、皆で共感できるようにしている。出来る事を職員と一緒にしてもらっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも協力して頂き、より良い支援が出来るよう努めている。家族に聞き取り本人が安心できる共通の言葉掛けを行なっている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパー、郵便局、自宅、かかりつけ医等へ出かけている。知人に出会う場面もある。近隣の友人が気軽に遊びに来れる雰囲気作りに努めている。	家族の了解のもと、入居者とともに郵便局に同行し、毎月の利用料等、必要な金銭の引き出しを支援している。自宅まで散歩やドライブしたり、地域行事に参加することで、馴染みの関係性の継続に向けた支援を行っている。	

福岡県 グループホーム まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している場合は、職員が個別に対応する。外出、買い物等趣味や好みに合わせて個別に対応している。行事やレクリエーション、体操等に参加して頂き交流の場を設けている。仲の良い利用者同士を同じテーブルにしている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合は、一旦退所となるが、退院の目処がつくと退所者があれば優先的に受け入れを行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発語や表情等から本人の意向を把握し実現に向けて常に話し合っている。	センター方式を一部活用し、状況に応じてシートを追加しながら、思いや意向、支援の根拠となる情報の把握に努めている。また、入居者の主観的情報等を個人記録に残し、申し送りやカンファレンス等にて共有、検討を行いながら、実現に向けたアプローチへとつなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中で少しずつ聞き取っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に必ず記録に目を通す事と、申し送りを受けることにしている。当日の出勤者は声を掛け合い情報を共有している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングや月例ミーティングで話し合い、本人や家族、主治医の意見も考慮した介護計画を立てている。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、各担当者が主体的に作成にかかわる原案を検討している。趣味活動や得意分野等、その人らしい暮らしの継続に向けた視点も盛り込まれ、個性ある介護計画となっている。主観的情報を含む詳細な個人記録が作成されており、日々の支援や計画作成に活かされている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動を記録した情報に基づいて話し合った事を支援に活かせる様になっている。		

福岡県 グループホーム まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の認知症の方が徘徊し、途中でホームに寄る事が多いので安全確保の為、夕方まで預かる事がある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	セラピーや童謡の集い等のボランティアの方々との交流や、教育機関からの慰問等楽しみにされている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みの病院を継続されている。利用者や家族が希望されれば事業所の協力機関を利用して頂いている。時間に関係なくドクターの指示が仰げる。	本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医や協力医療機関との連携を図り、24時間の医療連携体制が確立している。家族と医師との関係性にも留意しながら、情報や方針の共有を計っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回看護職員が健康チェックをし、スタッフ間で情報を共有している。近所に住んでいるので緊急時はすぐに対応できる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡をとりあい本人の状態をお互いに把握し、対応できる様にしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変する事がある事等、常に家族と話し合っている。家族や主治医の意見を聞き本人の状態に合わせ最善の支援方法を検討している。	入居時の説明や、状態の変化に応じて家族や協力医との話し合いを重ね、意向の確認及び方針の共有に努めている。本人、家族の意向に寄り添い、これまでに看取りの支援を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。定期的に研修に行き勉強会を行なっている。		

福岡県 グループホーム まつざきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会の下、夜間想定避難訓練を行なっている。近隣の方にも参加して頂き、協力を呼びかけている。	運営推進会議等を通じた働きかけにより、地域との連携を図りながら災害対策に取り組んでいる。夜間は法人内の連携も活かしながら、緊急時に備えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を開き、尊厳の意識付けを行い対応している。	センター方式の活用により、入居者の個性や背景等の理解や把握に努めながら、人格の尊重やプライドを損ねない対応となるよう留意している。排泄ケアの際には特に留意し、また方言の使用についても、馴れ合いとならないよう心掛けている。理念として、人格の尊重を謳っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せる様な声掛けを行い、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や趣味を考慮し、本人にとって楽しい一日となるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は自分で選んでいただき、ちぐはぐな服装をされていたら、さり気なく声掛けし自室にて着替えていただいている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け等を職員と共に行い、役割がある事で充実した生活をして頂いている。本人の好き嫌いも配慮している。	朝食はパンか御飯を選択してもらったり、毎月の出前を楽しみにしている方も多く、介護計画の中にも位置づけながら、「食」を楽しむ取り組みがある。畑での収穫を楽しんだり、包丁で野菜の下ごしらえをしてもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、確保できるようにしている。		

福岡県 グループホーム まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた声掛けや介助を行なっている。マウスウォッシュ、義歯洗浄剤を活用している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が保てる方はトイレにて排泄して頂いている。夜間のトイレの声掛けや誘導を行っている。	各居室にトイレが設置されているため、職員の観察力や気づきを共有しながら、支援を行っている。排泄パターンや状況の把握、また個別のサインを見逃さないようにしながら、時間を見計らってさりげなく声かけや誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、朝の牛乳や乳酸菌入りの乳製品を飲用して頂いている。適度な運動や散歩も心がけている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしているため、無理強いせず、一人ひとりに合わせた声掛けやタイミングよい声掛けで気持ちよく入って頂いている。	毎日入浴準備を行い、その日の希望や状況に合わせて、柔軟に対応するようにしている。入浴剤の使用や、柚子湯、菖蒲湯等にて季節感を演出している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝を取り入れたたり、メドマー(フットマッサージ)にて癒しの時間を設けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し全職員が理解している。変化があれば主治医に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一回好物の食事を楽しむようにしている。外出出来ない時、外注にて美味しく頂いている。		

福岡県 グループホーム まつぎきの宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩に出かけ地域の方々や挨拶したり、お花や野菜を頂く事もある。</p>	<p>敷地内は広く、個々に応じた見守り体制の中、畑の生育状況を確認したり、散歩に出掛ける等の支援が行われている。気の合う方同士の外出や、喫茶店、レストランでの外食にも出掛けている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族了解の下郵便局で利用料とお小遣いを引き出し、財布は事務所で預かり買い物の希望時は財布を本人に渡している。家族へも報告している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>見守りにて、毎日自分の携帯から家族へTELしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のあるレイアウトをホール内に施している。温度、湿度を考慮し天窓や天井ファン、除湿、冷暖房等使い分け、心地よく過ごして頂く工夫をしている。</p>	<p>ソファや畳スペース、食卓テーブル等、個々人にとってのくつろぎの場所があり、馴染みの専用椅子も置かれている。玄関脇には畑作業用の長靴が並んでいたり、軒下には畑で収穫された玉葱が吊るしてあったりと、日々の暮らしの営みを垣間見ることができる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳部分やソファ、廊下に椅子を配置し、思い思いにゆっくり過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族にお願いして、使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んで頂き、居室は自由に使っていただいている。</p>	<p>各居室入り口に設けられた軒が連なる様子は、宿場町としての景観が残る松崎地区の歴史が表現されており、法人代表者の思いが込められている。旅籠の屋号が掲げられ、ポストには毎月職員からの手紙が届けられる。トイレや洗面が設置され、仏壇や趣味道具、思い出の品が持ち込まれたプライバシー空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立した生活を送れる様、廊下や移動場所には手すりを設けている。又、浴槽、脱衣所、共用トイレ等も安全に使用出来る様工夫している。転倒の危険がある利用者の布団や押し車に鈴を付けて室内の動きが察知出来る様にしている。</p>		